

令和4年度 「ほっかいどう遺産WAON」 助成活動報告



2023年5月23日
NPO法人北海道遺産協議会

令和4年度「ほっかいどう遺産WAON」助成先一覧(計20件695万円)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	増毛山道と濃屋山道	増毛町、石狩市	特定非営利活動法人 増毛山道の会	増毛山道の歴史や遺産の広報、ツアー、維持管理活動	500,000
2	北海幹線用水路	空知地域	疏水(そすい)ほっかい愛護連絡協議会	北海道遺産「北海幹線用水路」の景観保全と環境整備の活動	500,000
3	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	函館市、伊達市など	縄文DOHNAN プロジェクト	道南ご当地カッキー第2 弾 & 子どもたちへの縄文文化普及啓発事業	500,000
4	天塩川	流域市町村	音威子府村若手まちづくりグループnociw *	天塩川流域移動史探訪事業	500,000
5	利尻島の漁業遺産群と生活文化	利尻島	利尻しまじゅうエコミュージアム	北海道遺産「利尻島の漁業遺産群と生活文化」の島外への普及活動とガイドブック制作	500,000
6	空知の炭鉱関連施設と生活文化、小樽みなとと防波堤、小樽の鉄道遺産、北海道の集治監(樺戸、空知、釧路、網走、十勝)	空知地域、小樽市、月形町、三笠市、標茶町、網走市、帯広市	炭鉄港推進協議会	幌内鉄道全線開通140周年 & 室蘭本線開業130周年地域プロモーションの実施	500,000
7	函館西部地区の街並み、福山(松前)城と寺町、姥神大神宮渡御祭、江差追分	函館市、松前町、江差町	蔵サミット実行委員会	北海道の北前船から始まる北方圏交流文化の宝箱を集めよう！～KURA～蔵サミットの開催	448,769
8	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	函館市、伊達市など	伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム	世界文化遺産登録の内浦湾の縄文遺跡群の観光による広域的な地域振興活用の研究・提案	400,000
9	サケの文化	石狩市	一般社団法人石狩シェアハピシティ計画	北海道遺産「サケの文化」の次世代担い手発掘プロジェクト	350,000
10	大友亀太郎の事績と大友堀遺構	札幌市	札幌村郷土記念館保存会	札幌黄の生みの親 ウィリアムP.ブルックス博士に関するパネル展示	350,000
11	スキーとニセコ連峰、アイヌ文様、アイヌ語地名	ニセコ地域、北海道各地	ニセコ発酵ツーリズム推進協議会	北海道遺産「スキーとニセコ連峰」などの地域資源の活用によるニセコ発酵ツーリズム推進事業～webサイト制作～	320,000
12	札幌軟石	札幌市	札幌軟石ネットワーク	PR ツール(小冊子)の作成	300,000
13	北海道の馬文化	北海道各地	ワッツどさんこ馬乗馬クラブ	北海道和種馬による介護予防乗馬推進事業	300,000
14	旭橋	旭川市	旭橋を語る会	北海道遺産「旭橋」架橋90周年記念事業	300,000
15	空知の炭鉱関連施設と生活文化	空知地域	三笠市、三笠振興開発株式会社	幌内鉄道140周年記念イベント	280,000
16	石狩川	流域市町村	石狩川下覧檣	北海道遺産石狩川の体験・PR活動	200,000
17	五稜郭と箱館戦争の遺構	函館市	特定非営利活動法人市民創作「函館野外劇」の会	函館野外劇	200,000
18	野付半島と打瀬舟	別海町、標津町	野付半島自然環境保全協会	野付半島で確認された昆虫類の写真パネル作成展示活動	200,000
19	小樽の鉄道遺産	小樽市	NPO法人北海道鉄道文化保存会	旧国鉄手宮線跡「花と鉄道の散策路」花壇の造成と育成活動	200,000
20	ピアソン記念館	北見市	特定非営利活動法人 ピアソン会	映画会「われ弱ければ、矢嶋楯子伝」 三浦綾子原作	100,000

1. 増毛山道の歴史や遺産の広報、ツアー、維持管理活動

- 実施主体：特定非営利活動法人 増毛山道の会
- 実施団体URL：<http://www.kosugi-sp.jp/sando/top.html>
(NPO法人増毛山道の会HP)

■ 助成額：500,000円

ー活動内容ー

- 増毛山道開削165年の歴史と約13年の復元活動を記録として遺すため、旧増毛小学校2階内に増毛山道を広報する「増毛山道展示室」作成事業を企画。
- 展示室には岩内～宗谷岬までの海岸切絵図や、明治期道庁時代の1/20万全北海道地形地図など、様々な資料のパネル37枚、活動写真等41枚を展示。廊下には快晴の日のみ見ることのできる「浜益御殿の下から望む日本海洋上に浮かぶ山々～恵庭岳～羊蹄山～ニセコアンヌプリ～積丹半島」と「浜益御殿頂上からの日本海～雄冬山～暑寒別連峰～浜益岳～日本海の360度」のパノラマ写真を貼った、6mのパネル2台を設置。
- 施設完成後の11/19（土）に、関係機関の方々と内覧会を開催。施設に電気設備などが無いため、一般公開については調整中。



遺産の名称：

「増毛山道と濃昼山道」
(増毛町、石狩市)



開削から160年余の歳月を経て、3mを越すクマイザサの中に埋没し、記憶の彼方からも消え去ろうとしていた「増毛山道と濃昼山道」。近世北海道の開拓遺産として、大きな意義があると確信した地域住民を中心に、復元行動を開始して約10年、遂に2016年に全線復元した。近代化に果たした歴史的役割や機能を体感できる遺構。

2. 北海道遺産「北海幹線用水路」の景観保全と環境整備の活動

- 実施主体：疏水ほっかい愛護連絡協議会
- 助成額：500,000円

一活動内容一

- 平成19年度の設立当初より毎年5～7回程「北海幹線用水路」の景観保全環境向上のため草刈り・除草作業、植樹活動等を実施している。
- 今回実施した「北海幹線用水路」周辺景観環境向上を目的としたサクラの植樹には、協議会員、関係機関職員、地元栗沢小学生16名が参加し実施した。
- 当日は参加者140名の内、約半数が植樹作業、半数は草刈り作業を1時間ほど行った。



遺産の名称：
「北海幹線用水路」
(空知地域)



赤平市から南幌町（7市町）まで延長約80kmにおよぶ北海幹線用水路は、農業専用では日本で最も長い。空知平野の農地に水を供給するために造られ、北海道の穀倉を支える役割を果たしている。1924（大正13）年から4年で完成し、空知川から最大毎秒44tを取水。北海頭首工を起点に、美唄市には調整池が、砂川、美唄、岩見沢市市街地では親水公園が整備されている。

3. 道南ご当地カッキー第2弾 & 子どもたちへの縄文文化普及啓発事業

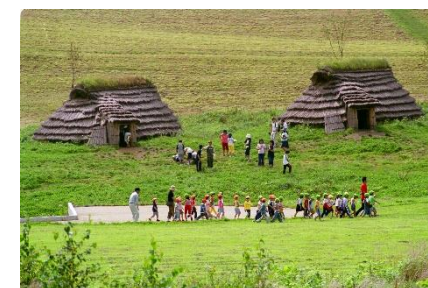
- 実施主体：縄文DOHNAN プロジェクト
- 実施団体URL：<https://www.facebook.com/people/縄文DOHNANプロジェクト/100040630875896/>（縄文DOHNANプロジェクトFacebookページ）
- 助成額：500,000円

一活動内容一

- 昨年度、当団体の縄文応援キャラクターであるカッキーを活用して作成した渡島管内のご当地カッキーは、各市町の道の駅等で掲出することにより、縄文の周知と縄文を活用した地域振興のきっかけとなった。今回はその第2弾として、道南全体にその輪を広げるため、檜山管内各町のご当地カッキーを制作。今後各市町の道の駅等に配置予定。
- 子どもたちへの縄文の周知のため、カッキーと同じく縄文応援キャラクターのカメちゃん・トーヤくんの3種被り物と、渡島管内のご当地カッキーをデザインしたクリアファイルを作成。被り物は、イオン上磯店や函館蔦屋書店で実施したイベントで使用し、子どもから大人まで大好評だった。クリアファイルは、令和5年4月に入学する道南（渡島）地域の新1年生に配布した。



遺産の名称：
「内浦湾沿岸の縄文文化
遺跡群」
（函館市、伊達市など）



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

4. 天塩川流域移動史探訪事業

- 実施主体：音威子府村若手まちづくりグループnociw＊
- 実施団体URL：<https://nociw.localinfo.jp/>
(音威子府村若手まちづくりグループnociw＊HP)

■ 助成額：500,000円

ー活動内容ー

- 音威子府村をはじめとする中流域付近は、天塩川に沿うように「鉄道」や「道路」などの交通網が延びているという特徴をより広く知ってもらうための試行として、北海道遺産・天塩川と「移動史」との視点から、流域の歴史に触れるセミナーを企画。特に音威子府村～中川町間が開通から100年の節目を迎えたことから、貸し切り特別列車に乗車する行程を含めた探訪セミナー「北海道遺産『天塩川』流域移動史探訪セミナー」を実施し、これまでとは異なる視点での魅力創出に取り組んだ。
- 令和4年9月25日（日）、下流域である幌延町から【大曲駅跡】【天塩川大橋】【天塩川歴史資料館】【問寒別渡船跡】【簡易軌道起点】【ふるさと伝承館】【アベシナイ駅跡跡】【松浦武四郎調査地】【北海道命名の地】を巡った。セミナーでは、歴史コーディネーターの山本裕雪氏と、延べ参加者12名とともに各地を訪問。音威子府村からは、貸し切り列車「テッシ」号に乗車し、鉄路から見える天塩川の風景を見ながら名寄市までを探訪した。
- セミナーでは地元ならではの知識や各分野に精通した参加者が多く、コーディネーターによる解説だけではなく、互いに解説をしあいながら、天塩川流域の歴史巡りを楽しまれていて、次へと活かすことができるご意見が多く寄せられた。



遺産の名称：
「天塩川」
(流域市町村)



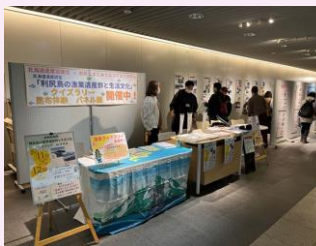
天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることが出来る日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

5. 北海道遺産「利尻島の漁業遺産群と生活文化」の島外への普及活動とガイドブック制作

- 実施主体：利尻しまじゅうエコミュージアム
- 実施団体URL：<https://rishiricomuseum.wixsite.com/rishiriisland/toppage>
(利尻しまじゅうエコミュージアムHP)
- 助成額：500,000円

ー活動内容ー

- 今まで町単独での遺産ガイドMAPはあったが、島内全域を網羅する遺産MAPがなかったことから、島内の遺産の場所や名称、歴史が1つにまとまっている「利尻島遺産ガイドMAP」を1,200部制作。PRイベントでの配布を行った他、島内の郷土資料館や博物館、観光案内所へ配置予定。
- 当会設立以来初となる島外PRイベントを実施。北海道遺産協会と共同で行った本イベントでは、北海道遺産協会及び利尻島の遺産パネル展示の他、新たに制作した「利尻島遺産ガイドMAP」の配布を行った。また、お土産昆布作り体験や、遺産クイズラリーも実施。クイズラリーでは全問正解者（300名限定）へ利尻昆布らーめんをプレゼントして、大盛況となった。クイズ参加者からは「じっくり見ることが出来て大変勉強になった。」「展示で答えを探していたら出身地の名前があって興味がわいた。」等のお声をいただいた。



遺産の名称：

「利尻島の漁業遺産群と生活文化」（利尻島）



日本最北の利尻島には、近世以降の漁業と移住の歴史を物語る漁業遺産群がある。近世には松前藩、近江商人による交易場所がおかれ、アイヌがそれを支えた。幕末以降は出稼漁民が松前や青森、秋田から渡り漁場を拓いた。その記憶は袋澗や番屋、石碑や獅子舞などに残っている。島の産物であった鱺は、北前船で本州に運ばれた。利尻島を行き来する海の道は「ヒトは北へ、モノは南へ」という交流史をつくりあげた。

6. 幌内鉄道全線開通140周年 & 室蘭本線開業130周年地域プロモーションの実施

- 実施主体：炭鉄港推進協議会
- 実施団体URL：<https://3city.net/>
(炭鉄港推進協議会HP)

■ 助成額：500,000円

ー活動内容ー

- 10/29、30に山口県下関市で開催された「日本遺産フェスティバル」にて「炭鉄港」として日本遺産にも登録されている、北海道遺産「空知の炭鉱関連施設と生活文化」「小樽みなとと防波堤」「小樽の鉄道遺産」「北海道の集治監」のPR活動を実施した。イベントではパンフレットを配布したほか、本助成により制作したノベルティを目玉景品として、本物の石炭を来場者に持ってもらい、重さを予想してもらう「石炭の重さ当てゲーム」を実施した。
- 既存のパンフレットを修正・増刷し、関係市町への配布と普及啓発を行った。



遺産の名称：
「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

7. 北海道の北前船から始まる北方圏交流文化の宝箱を集めよう！ ～KURA～蔵サミットの開催

- 実施主体：蔵サミット実行委員会
- 助成額：448,769円

一活動内容一

- 助成金を活用して、北海道遺産である「函館西部地区の街並み」の担い手、「福山（松前）城と寺町」の担い手などが集い、蔵をテーマとして蔵の保存活用方法やアイデアづくりなど文化交流の場づくりとしての「蔵サミット」を開催した。
- 「蔵サミット」の事前準備として、過去に江差町で実践をした「メンバー参加型のウッドデッキ制作」を行った。
- 令和4年11月20日、松前町にあるリノベーションした江戸時代の蔵を舞台に、かつて北前船の交易で栄えた松前町・函館市・江差町などから人々が集い、蔵の見学、トーク会、アコーディオン演奏会などの「蔵サミット」を開催した。



遺産の名称：

「福山（松前）城と
寺町」（松前町）



江戸時代の日本で最後に築城された城郭で、箱館戦争では旧幕府軍と官軍の戦場となった。城の北側には道内唯一の近世的な寺町があり、龍雲院、法源寺、法幢寺など5つの寺や松前藩主松前家墓所が現存している。また、城と寺町の一帯は北海道でもっとも早く見ごろとなる桜の名所でもある。松前町の歴史を知ることは開拓以前の北海道の歴史を理解する上で重要。

8. 世界文化遺産登録の内浦湾の縄文遺跡群の観光による広域的な地域振興活用の研究・提案

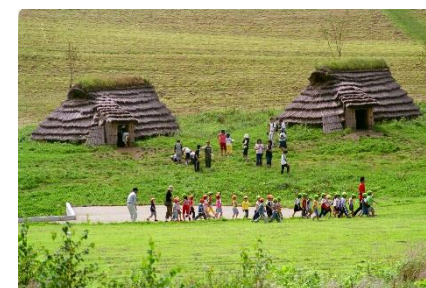
- 実施主体：伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム
- 助成額：400,000円

一活動内容一

- 期日：令和5年3月16日（木）
- 内容：ドローンによる映像資料の作成、バスでの現地視察・研修会
- 参加者；伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム構成員関係など16名
- 内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群を活用した地域振興の研修で、沿岸の縄文文化遺跡群の海上から見た位置を始めて映像と地図で作成して現地研修し、終了後は「縄文遺跡を活用した地域づくり」報告書を作成し参加者及び構成員関係者に啓発・PRした。



遺産の名称：
「内浦湾沿岸の縄文文化
遺跡群」
（函館市、伊達市など）



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

9. 北海道遺産「サケの文化」の次世代担い手発掘プロジェクト

- 実施主体：一般社団法人石狩シェアハピシティ計画
- 実施団体URL：<https://www.ishikarishc.com/>
(一般社団法人石狩シェアハピシティ計画HP)
- 助成額：350,000円

ー活動内容ー

- 「サケの文化」にまつわる石狩市発祥の郷土料理「石狩鍋」を手軽に食べられるよう、プロモーション用ノベルティ（鍋味噌）を制作するとともに、石狩鍋及び昨年度事業で三笠高校調理部と共同で開発したアレンジ石狩鍋「石狩シャケナベイバー」のプロモーションに向け、以下の各種イベント等でのプロモーション活動を行った。

- 2022. 9 厚田ふるさとあきあじ祭り（約300個配布）
- 2022. 11 北国郷土鍋フェア（約10個配布）
- 2022. 11 北海道遺産協議会パネル展（約100個配布）
- 2023. 1 さっぽろ100人カイギ（約70個配布）
- 2023. 1 九州移住ドラフト会議（約160個配布）
- 2023. 2 福岡県内におけるプロモーション（約40個使用）
- 2023. 3 北海道移住ドラフト会議
(約100個配布)
- 2023. 3 石狩鍋聖地巡礼逆参勤
交代ツアー（約20個配布）



遺産の名称：
「サケの文化」
(北海道各地)



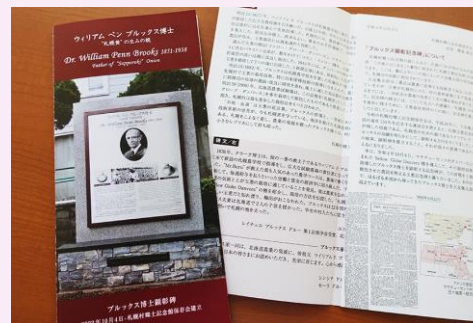
サケは北海道を代表する食材。その歴史は古く、石狩市では、縄文時代の遺跡からサケを捕獲したと推定される仕掛けが発見されている。母川回帰は生命のドラマを生み、自然環境保護の目に見える指標でもある。サケ漁がさかんな標津町では、サケのことをもっと知ってもらおうと、2009（平成21）年に「標津町サケマイスター制度」を創設した。

10. 札幌黄の生みの親 ウィリアムP.ブルックス博士に関するパネル展示

- 実施主体：札幌村郷土記念館保存会
- 助成額：350,000円

一活動内容一

- 大友亀太郎が開墾した御手作場から始まった札幌村に、明治10年札幌農学校に赴任し、玉葱栽培を導入したブルックス博士の功績を末永く伝えるための顕彰碑建立に合わせて「札幌黄の生みの親 ウィリアムP.ブルックス博士」に関する特別展示を開催、パネル（10枚）、パンフレット（1,000部）、しおり等を作成した。10/4にアメリカ総領事、札幌市長なども出席して顕彰碑除幕式が行われ、ブルックス博士のご子孫もオンラインで参加した。



遺産の名称：

「大友亀太郎の事績と
大友堀遺構」（札幌市）



北海道開拓の中心である札幌の開基は、幕末の大友亀太郎の札幌村建設と大友堀の開削に始まる。大友は慶応2（1866）年に本州土木技術の後継者として大友堀と札幌村建設を主導した。堀は4 kmに及び、その一部は現創成川として残り、これは島義勇による札幌の東西の起点となった。大友は明治3（1870）年に札幌を去ったが、その事績は札幌市東区の札幌村郷土記念館内大友関連展示と文書資料で見られる。

11. 北海道遺産「スキーとニセコ連峰」などの地域資源の活用による ニセコ発酵ツーリズム推進事業～webサイト制作～

- 実施主体：ニセコ発酵ツーリズム推進協議会
- 助成額：320,000円

一活動内容一

- 旅行者に対してニセコエリアの更なる魅力を広く発信することを目的とし、当協議会のwebサイト制作を実施した。webサイトでは当協議会の取り組みだけでなく、当会員（地域事業者）の各webサイトにリンクしこれまでの取り組みがわかるようにした。地域活性化に向けた新たなアプローチである「ニセコ発酵ツーリズム」が地域に根ざした観光文化となるよう、地域住民への周知や情報発信も兼ねている。今後は「発酵祭」など当協議会主催イベントの広報にも役立てながら、コンテンツ拡充に向け取り組んでいく。引き続き「アイヌ文様」や「アイヌ語地名」などの地域資源を活用しながら、リピーターや長期滞在者に向けた新たな価値を創造したい。



遺産の名称：
「スキーとニセコ連峰」
(ニセコ地域)



厳しい寒さや雪に閉ざされる北海道の人々にとって、冬期間の最大の娯楽はスキー遊びだった。昭和40年代頃からは「冬のレジャー」と言われるようになり、スキー場の代表格が昭和初期から知名度の高かったニセコ連峰。娯楽が多様化した今日、ウィンタースポーツだけではなく、四季を通じての新しいアウトドアスポーツの拠点となっている。

12. PR ツール(小冊子)の作成

- 実施主体：札幌軟石ネットワーク
- 実施団体URL：<https://sapporonanseki.jimdofree.com/>
(札幌軟石ネットワークHP)
- 助成額：300,000円

一活動内容一

- 北海道遺産である札幌軟石の歴史や文化的価値について、多くの方々に知ってもらうため、過年度に試作品として制作した小冊子「札幌軟石物語」を、本年度は3,000部ほど印刷し、PRツールとして配布した。また、当会の活動支援をして下さる方への返礼品としても活用している。



遺産の名称：
「札幌軟石」（札幌市）



札幌軟石は、4万年前、支笏火山の大規模な噴火による火砕流が札幌周辺で冷えて固まった岩石（溶結凝灰岩）である。加工しやすく、耐火・防火性に富んだことから、明治初期より札幌をはじめ北海道内の建造物に多く用いられ、個性的な景観も形づくった。古い石蔵がカフェなどに再利用され、採石場跡は公園や緑地として市民に親しまれているのみならず、軟石は現在も市内南区で採掘され、近年は建物の仕上げ材としても人気がある。また、軟石の雑貨が商品化されるなど、札幌軟石の文化は今も脈々と受け継がれている。

13. 北海道和種馬による介護予防乗馬推進事業

- 実施主体：ワッツどさんこ馬乗馬クラブ
- 助成額：300,000円

一活動内容一

- 北海道遺産でもある北海道和種馬を使って、65歳以上・乗馬未経験・自立（介護認定無）の高齢者を対象に、日本医療大学スタッフによる年2回の専門的な体調測定、並びに毎回主催者自ら騎乗前に体調測定（体組成・血圧）をしながら、毎月2回（冬期は月1回）、15分乗馬会員（初年度会員）、30分乗馬会員（2・3年目会員）ごとに健康の維持・増進を図り介護状態に入らないよう定期的に乗馬を実施した。
- 乗馬実績
 開催回数 15分乗馬 20回 / 30分乗馬 20回
 延べ乗馬人数 15分乗馬 113名 / 30分乗馬 121名



遺産の名称：
「北海道の馬文化（どさんこ）」（北海道各地）



北海道の馬の歴史は古く、明治期には農耕など開拓の労働力として人々と苦労をともにしてきた。農耕馬の力を試したお祭りばん馬は「ばんえい競馬」に発展し、現在は帯広市のみで開催されている。また、速さを求めてサラブレッドの改良が進み、浦河町の「JRA日高育成牧場」では世界に通用する強い馬づくりに取り組んでいる。また馬産地・日高の牧場風景は観光資源にもなっている。

14. 北海道遺産「旭橋」架橋90周年記念事業

- 実施主体：旭橋を語る会
- 助成額：300,000円

一活動内容一

- 石狩川に旭橋が架けられたのが1932年（昭和7年）。2022年で旭橋は90歳となることから、旭橋架橋90周年を記念して、市民が旭橋の歴史を振り返り、旭川の未来や平和であることの大切さについて触れられる、地域学習フォーラム「橋架橋90周年特別公開授業」を開催。
- 講師はほっかいどう学推進フォーラム理事長・神保元康さん、NHK旭川放送局キャスター・大橋未歩さんをお招きし、第一部 基調講演「旭橋を渡って未来にGO！～私の未来の羅針盤～ほっかいどう学入門～」、第二部 トークセッション「地元を知ると未来が広がる」を行った。
- 会場では架橋90周年をきっかけに行われた旭橋長寿命化工事の様子を収めた動画を上映したほか、VR動画の上映ブースや旭橋パネル展示も行い、旭橋の保存と活用を発信した。



遺産の名称：
「旭橋」（旭川市）



「いくつもの時代と思い出を刻みながら、人々の暮らしをみつめてきた橋があります」『旭橋』という名の豆本の書き出しである。

旭橋は道北の中心都市旭川を流れる石狩川に架かる橋で、明治25年、現在の位置に土橋が架けられたのに始まり、昭和7年、鋼鉄製のアーチ曲線を描く橋が、当時の最新技術をもって竣工した。川のまち・旭川の象徴。

15. 幌内鉄道140周年記念イベント

- 実施主体：三笠振興開発株式会社
- 実施団体URL：<https://www.city.mikasa.hokkaido.jp/>（三笠市HP）
- 助成額：280,000円

一活動内容一

- 幌内鉄道は明治15年、幌内炭鉱から採掘された石炭を本州へ輸送するため北海道で最初に敷設された鉄道で、幌内炭鉱が閉山する平成元年の直前の昭和62年に国鉄分割民営化に伴い廃線。今年が開通した1882年から140周年となる記念すべき年であることから、幌内鉄道の歴史を振り返る催しを実施し、価値の再発見に結び付け、シビックプライドの醸成を図った。
- また、三笠鉄道村イベントでも140周年記念缶バッジを配布し、多くの来場者に幌内鉄道を知ってもらうきっかけづくりと、三笠鉄道記念館の活用・保全にも繋がった。



遺産の名称：
「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

16. 北海道遺産石狩川の体験・PR活動

- 実施主体：石狩川下覧櫓
- 実施団体URL：<https://www.facebook.com/people/石狩川下覧櫓/100064868040973/>（石狩川下覧櫓Facebookページ）
- 助成額：200,000円

一活動内容一

- 子供を対象にした「水上体験学習」を開催。開催日当日は午前中、時々降雨に見舞われるも、事前に周知したSNSや、空知管内各地に張り出したポスターのおかげで地元のお子様連れの方々はもとより、遠くは札幌市内の方も参加した。ヨット、カヌー、ウォーターボールバルーンなど、全て無料で開放し、川で安全に遊ぶための教育訓練を実施した。参加者からは「一夏の思い出になった」と大変喜んで頂いた。（参加者数は延べ250人）



遺産の名称：
「石狩川」
（流域市町村）



大雪山系を源とし、上川、空知、石狩の大平野を形成して日本海に注ぐ大河川。北海道開拓の歴史の中で、度重なる洪水と闘いながらも、交通・物資輸送の道として大きな役割を担い、また、鮭漁など北海道の歴史と文化が刻み込まれている母なる川。石狩川の地引き網漁は江戸時代に始まり、昭和期には遠方からも多くの見物客が訪れたほどである。

17. 函館野外劇

- 実施主体：特定非営利活動法人市民創作「函館野外劇」の会
- 実施団体URL：<http://www.yagaigeki.com/>
(特定非営利活動法人市民創作「函館野外劇」の会HP)
- 助成額：200,000円

一活動内容一

- 市民及び修学旅行生・観光客等に函館の歴史学習の場を提供することを目的とし、国の特別史跡「五稜郭跡」を舞台に函館地方の歴史を劇にした市民創作函館野外劇を開催。
- 新型コロナウイルス感染防止策上、五稜郭跡での夜公演を昼公演に変更し、後半は函館市芸術ホールで照明等を使用した公演を行った。



遺産の名称：
「五稜郭と箱館戦争の
遺構」（函館市など）



箱館戦争は1868（明治元）年秋の旧幕府脱走軍の侵攻に始まり、翌年春の新政府軍の反撃により、五稜郭開城で終わった。戦いは道南一帯に及び遺跡や遺構が随所に見られる。榎本武揚率いる旧幕府脱走軍が上陸した鷲ノ木、蝦夷島臨時政権の根城となった五稜郭や急ぎ造成された四稜郭、猛攻を受けた福山城、開陽丸が沈没した鷗島沖、新政府軍が上陸した乙部海岸、激闘の二股口、土方歳三が戦死した一本木関門など、戦いのすさまじさを偲ばせる。

18. 野付半島で確認された昆虫類の写真パネル作成展示活動

- 実施主体：野付半島自然環境保全協会
- 助成額：200,000円

—活動内容—

- 野付半島は、特異な自然環境を有し北海道遺産をはじめ、道立自然公園、ラムサール条約登録湿地など国内をはじめ国際的にも重要な自然環境を有し、貴重な動植物も数多く生息している。
- その動植物の中で、野鳥や植物についてはこれまでパネル等を作成して施設内での展示を行ってきたが、昆虫類については未展示であった。
- 来館者の野付半島の自然環境への理解を深めるべく、野付半島で生息が確認されているトンボ類と蝶類、ハチ類の写真パネルを作成し、施設内へ設置した。



遺産の名称：

「野付半島と打瀬舟」
(別海町、標津町)



全長26kmの日本最大の砂嘴（さし）で、擦文時代の竪穴式住居も見られる。江戸時代には国後へ渡る要所として通行屋が設けられ、北方警備の武士も駐在しました。トドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋に野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの人々をひきつけている。北海シマエビ漁に用いられる打瀬舟は野付湾の風物詩として知られ、霧にかすむ舟影は幻想的。

19. 旧国鉄手宮線跡「花と鉄路の散策路」花壇の造成と育成活動

- 実施主体：NPO法人北海道鉄道文化保存会
- 実施団体URL：<http://www.tetsudo.in/>
(NPO法人北海道鉄道文化保存会HP)
- 助成額：200,000円

一活動内容一

- 「小樽の鉄道遺産を巡る」マップを増刷。市内公共施設及び宿泊施設へ設置した。今後も定期的な配布を予定している。
- 旧国鉄手宮線沿線沿いに作られた「花壇の育成活動」が、多くの団体や企業の助成金で行っている事を市民や観光客に知ってもらうために、活動の趣旨と支援団体の紹介等を掲載した「看板」を制作し、旧国鉄手宮線沿線の花壇に設置。道行く市民が足を止めて看板を見ている姿が多く見られた。



遺産の名称：
「小樽の鉄道遺産」
(小樽市)



明治13年11月28日、小樽手宮一札幌間に、アメリカ人技師クロフォードの指導のもと、待望の鉄道が開通。2年後、幌内炭鉱に到達し、石炭の搬出が開始された。港一鉄道結節のまち小樽は急速に発展し、北海道の開発を先導するまちに成長。石炭から石油に、港も日本海から太平洋に移ったが、北海道の発展を支えた鉄道遺産は、国の重要文化財、鉄道記念物にも指定され、野外展示の約50両の車両を含め、鉄道技術の発展を示す貴重な近代遺産として保存されている。

20. 映画会「われ弱ければ、矢嶋楯子伝」 三浦綾子原作

- 実施主体 : 特定非営利活動法人 ピアソン会
- 実施団体URL : <http://www.npo-pierson.org/>
(特定非営利活動法人 ピアソン会HP)
- 助成額 : 100,000円

一活動内容一

- 北見への遊郭設置阻止のため設立され、ピアソン夫人が代表を務めた「野付牛婦人矯風会」に、運動応援としてピアソン夫妻と旧知の仲であった「日本基督教婦人矯風会」の矢嶋楯子会頭が訪れ、遊郭設置反対の講演を行った。明治・大正と日本の婦人運動の先駆けとなった矢嶋楯子とピアソン記念館との縁を北見市民に広く知ってもらおうことを目的として、「矢嶋楯子、ピアソン邸来訪105年記念上映会」を開催した。



上映会のご案内

『われ弱ければ 矢嶋楯子伝』にかける思い——監督 山田火砂子

矢嶋楯子は1833年に、野付の寒村に生まれ、38歳まで武士の意で、茂原のたいもを営むなど、困難な女性の生き方を歩み、最後、北海道に定住する道を選び、その終着に選んだ地がアイヌ語で「地の果て」を意味する野付牛（現在の北見）。廃娼運動や慈善活動など、夫妻の志は今も北見の精神文化のよりどころとして多くの市民に親しまれている。設計者は近江兄弟社創設者としても知られているW. M. ヴォーリス。

各上映前に山田火砂子監督の舞台挨拶を予定しております(会場は上映開始30分前を予定)

上映に関するお問い合わせは、
山田火砂子監督のHPをご覧ください。
<http://www.yamada-hashiko.com/>

お問い合わせ先: 山田火砂子監督 (010-8953-5703)
現代おたけしん (03-6332-3991) (平日10時~18時) / e-mail: gendatapro@gendatapro.jp

このチラシをご持参の方は割引料金1,300円になります(5名様まで)

下記上映会は、NPO法人ピアソン会と現代おたけしんとの共催事業として実施されます。

10/29 北見芸術文化ホール (きたアート21) (土)

【開演】 ①10:30 ②14:06 (2023年12月15日)

※10:30開演は、北見芸術文化ホール1F 3-22 / 3F 北見市地下鉄3号線、駐車場400台

前売券販売

- 北見芸術文化ホール
- NPO法人ピアソン会 (0157-31-1215) / オンライン25日間
- 現代おたけしん (03-6332-3991)

● 前売券 一般: 1,200円
● 当日券 一般: 1,500円

※10:30開演は、アイヌ民族博物館、山田火砂子監督のHPをご覧ください。
※14:06開演は、アイヌ民族博物館、山田火砂子監督のHPをご覧ください。

後援/北見市教育委員会・北海道新聞北見支社・NPO法人北見文化遺産・NPO法人アート文化協会

遺産の名称:
「ピアソン記念館」
(北見市)



アメリカ人宣教師G. P. ピアソン夫妻の私邸として1914（大正3）年に建てられた。夫妻は道内各地を伝道し、その終着に選んだ地がアイヌ語で「地の果て」を意味する野付牛（現在の北見）。廃娼運動や慈善活動など、夫妻の志は今も北見の精神文化のよりどころとして多くの市民に親しまれている。設計者は近江兄弟社創設者としても知られているW. M. ヴォーリス。